

2024 日本経営診断学会北海道部会
企業見学会 企画趣旨・概要

地域発展は、地域の主体的かつ自律的な努力のもとで推進されるべきことはいうまでもありません。「内発的発展論 (endogenous development)」として 1970 年代から議論されてきた地域発展論です。しかし近年ではそれにとどまらず、「地域の主体性」を前提としつつも、「外部の力・外来の力」も有効に取り入れた地域発展のあり方が議論されるようになってきています。このような地域発展論は neo-endogenous development と呼ばれています。

今回の企業見学会では、江別市をフィールドとして、「外部の力・外来の力」がどのように地域発展に寄与しているのか、みなさまと考える機会にしたいと思います。

【当日スケジュール】 (一部変更になる可能性があります)

2024 年 8 月 6 日 (火)

- 10:30 JR 野幌駅南口集合
- 11:00 アンモナイトレストラン① 講話
- 12:00 同レストランで昼食 (費用は各自負担。1,200 円~1,500 円程度)
- 13:30 江別市役所 企業立地推進室② 講話
- 15:00 サッポロ珈琲館 Rinboku ③ 講話
- 16:30 JR 野幌駅 解散

- ① アンモナイトレストラン：別紙資料のとおり、江別市ではこのほど在留外国人が 1000 人を超え、中でもパキスタン人が急増しています。アンモナイトレストランは江別市のパキスタン人コミュニティを支える役割も担っている企業です。

https://ebetsunopporo.com/?p=40691#google_vignette

- ② 江別市企業立地推進室：江別市の企業立地政策についてご講話いただきます。

- ③ サッポロ珈琲館 旧林木育種場をリノベーションし、カフェを運営すると同時に、本社を札幌から江別に移転しました。

<https://sapporocoffeekan.co.jp/shop/rinboku/>

江別の在留外国人、初の千人 4月 パキスタン人が急伸

2024年4月12日 23:22(4月13日 0:09更新)

【江別】住民基本台帳に基づく4月1日時点の市内の在留外国人が、初めて千人（前年同月比147人増）を記録したことが分かった。統計の残る2013年11月以降で最多。市内に中古車のオークション会場があることを背景に、自動車の輸出業に従事する外国人やその家族らが転入しているとみられる。



■自動車の輸出業者ら転入か

国籍の構成は多い順にベトナム232人（同29人増）、パキスタン208人（同48人増）、中国179人（同3人減）など。特にパキスタンの伸びが顕著で、昨年12月から中国を抜き全体で2位となっている。

在留資格別では「技能実習」233人（同67人増）、「永住者」161人（同5人増）、「特定技能」147人（同28人増）などで、国内の人手不足を背景に外国人の就労が増加傾向だ。

一方、パキスタン人を中心に家族を伴っての転入も多く、16歳未満の在留外国人86人（同7人増）のうち、パキスタンは46人（同5人増）でトッ